



# 第9回 JSWN総会

Japanese Society of Women Nephrologist

**日時** 2011年6月17日(金) 18:00～20:30

**会場** ヨコハマ グランドインターコンチネンタルホテル 3階「アトランティック」  
〒220-8522 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1 TEL: 045-223-2222 (代表)

**参加費** 3,000円 (別途 JSWN 年会費 2,000円を申し受けます)

**JSWN代表世話人** 虎の門病院 **原 茂子先生**

**JSWN当番幹事** 自治医科大学 **湯村 和子先生**

## プログラム

### 地域活動報告

北海道エリア、東北エリア、関東エリア、北信越エリア  
東海エリア、近畿エリア、九州エリア

### 講演1

岡山大学病院における女性医師支援  
—求められるキャリア支援を目指して

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 **片岡 仁美先生**

### 講演2

腎臓学医療人コミュニティーにおける  
キャリア支援のこれまでとこれから

財)田附興風会医学研究所北野病院 研究所副所長・腎臓内科部長 **武曾 恵理先生**

### 自由討論

(ビュッフェスタイル)

JSWN: 日本女性腎臓病医の会

主催: 日本女性腎臓病医の会

協賛: 中外製薬株式会社 協和発酵キリン株式会社  
大正富山医薬品株式会社 興和創薬株式会社 第一三共株式会社 バクスター株式会社 (2011年5月31日現在)

事務局 自治医科大学 腎臓内科 湯村 和子

事務取扱い担当 株式会社ピーシーオーワークス

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町9番地 日経タイプビル4F TEL: 03-3291-3636 FAX: 03-3291-3635 E-mail: jswn\_info@pcoworks.jp

## 講演 1

### 岡山大学病院における女性医師支援—求められるキャリア支援を目指して

片岡 仁美

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

岡山大学では平成 19 年度文部科学省の「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（医療人 GP）」に採択されたことを契機に、病院全体として女性医師支援を推進してきた。医師・看護師の聞き取り調査と 20-70 代医師のアンケートから浮き彫りになったニーズを中心とし、先輩から後輩に知識と経験を伝え緩やかなネットワークをつくるサポートシステムと、個々のニーズにあわせた復職支援を行っている。ネットワークによるサポートでは、顔の見えるサポートシステムと WEB を用いたサポートの両方を行っている。復職支援では、医師・看護師がチームでシミュレーショントレーニングを行うことで、復職へのステップとした。また、当直・オンコール免除、短時間勤務などの柔軟な勤務体制が可能になり、約 3 年間で 56 名が復職した。また、病児保育ルームが設置され、働きやすい環境が整ってきた。岡山大学の支援の特徴は、誰でも参加できメリットが得られるという汎用性と個々への細やかな対応という個別性のバランスにあり、平成 22 年度からは岡山県の委託事業として活動を継続している。今後の課題は働きやすい環境を大学病院のみならず地域で共有することと、「離職せずに続けられる」ことが可能になった先の個々の能力を生かしたキャリア形成の支援である。真のキャリア支援を目指してどのように取り組むか、課題も含めて述べたい。

## 講演 2

### 腎臓学医療人コミュニティーにおけるキャリア支援のこれまでとこれから

武曾 恵理

財)田附興風会医学研究所北野病院 研究所副所長・腎臓内科部長

京都大学医学部臨床教授、復旦大学上海医学院客員教授

NPO 法人「イージェイネット・女性医師のキャリアを形成、維持、向上をめざす会」理事

医療現場でのキャリア継続に問題意識があったものの、個人的な問題で片付けようとしていた 30 代前半。留学生活をへて、外から日本を見る機会があったこと、その後数少ない大学女性教官となって、腎臓学部門の責任者になったことから、40 代の後半に、女性腎臓医師コミュニティーをある程度築いてそのことを前面に出して話あう機会をもちだした。一方、大学の外に出てから社会との接点がふえ、女性医師のための NPO 法人設立に取り組み、社会的に訴える思考訓練と視線が鍛えられた。このことを通じて、2005 年前後から、日本、地域の医師会、女性医会、など、社会的にはすべての分野で問題意識は広がっていることは実感され、ある程度その一角に食い込んでいる実感があった。昨今では大学もふくめて男女共同参画を形だけでも取り上げていないところはないくらい一般化された。その中で、腎臓学を志す者として、学会での委員会設立に取り組む機会が与えられ、あらためてどのような特異的なアプローチがあるかを探ることが求められた。このことへの答えはまだ明確ではないが、コミュニティーを多彩化すること（男女、年齢、職場、育児経験ありなしなど）で、これから得られるのではないかと思われる。この 5 年間同時にアジアへの視点（上海医療プロジェクト企画）も加わり、この多彩さはこれからさらに広がる可能性がある。これまでの自分に対しても含めたキャリア支援の紹介とその過程での困難や達成感。さらにはこれからの課題と期待について述べたい。